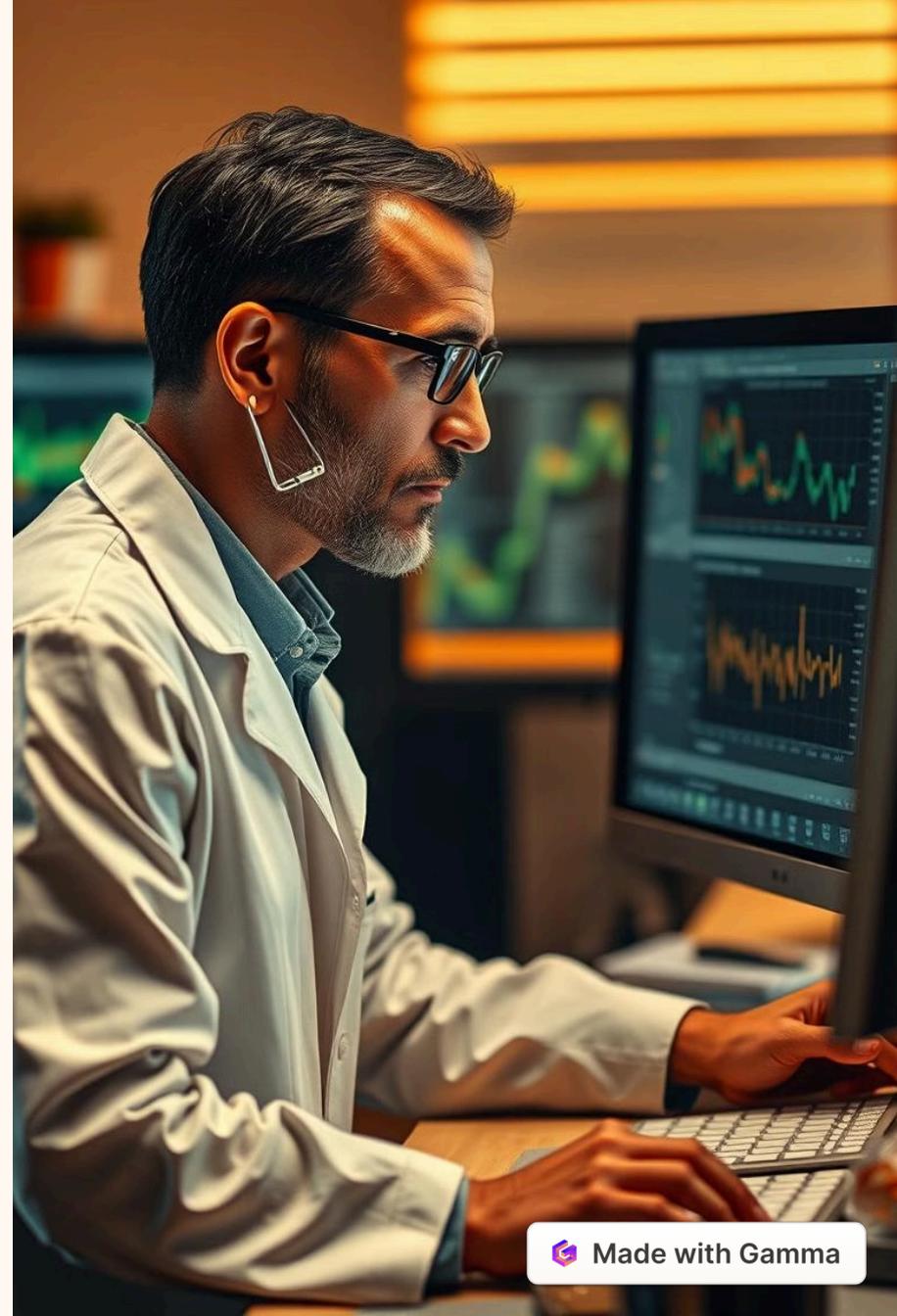
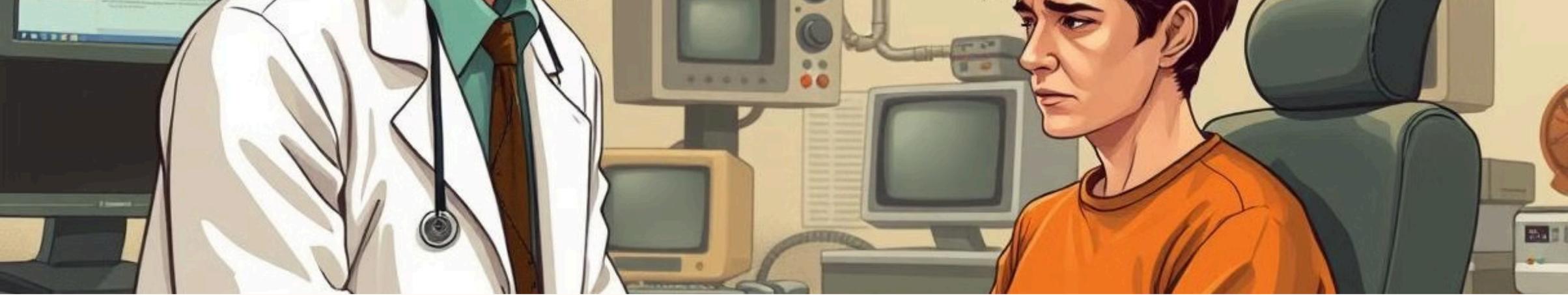


行動療法の研究戦略と結果

行動療法の研究戦略と結果について詳しく見ていきます。行動療法士たちは、治療効果を評価するためのさまざまな戦略を開発してきました。これらの戦略には、単一症例の実験設計、実験室ベースの研究、治療パッケージ戦略、比較研究戦略などが含まれます。また、行動療法の有効性と効果に関する研究結果についても探っていきます。

 by Sky Blue





単一症例の実験設計

1

ABA設計

Ayllon と Azrin (1965) の研究で示された逆転設計です。

2

多重ベースライン設計

異なる反応が継続的に測定され、各反応に対して治療が連続的に適用されます。

3

限界

被験者変数の相互作用を調査できず、結果を他のケースに一般化するのが困難です。



実験室ベースの研究

特徴

厳密に管理された条件下で特定の問題に適用された特定の技術を評価します。

利点

結果の複数の客観的尺度の使用、均質な被験者サンプルとセラピストの選択が可能です。

制限

軽度の障害を持つ被験者のみの調査結果が、より重度の障害を持つ患者には一般化できない可能性があります。

治療パッケージ戦略

1

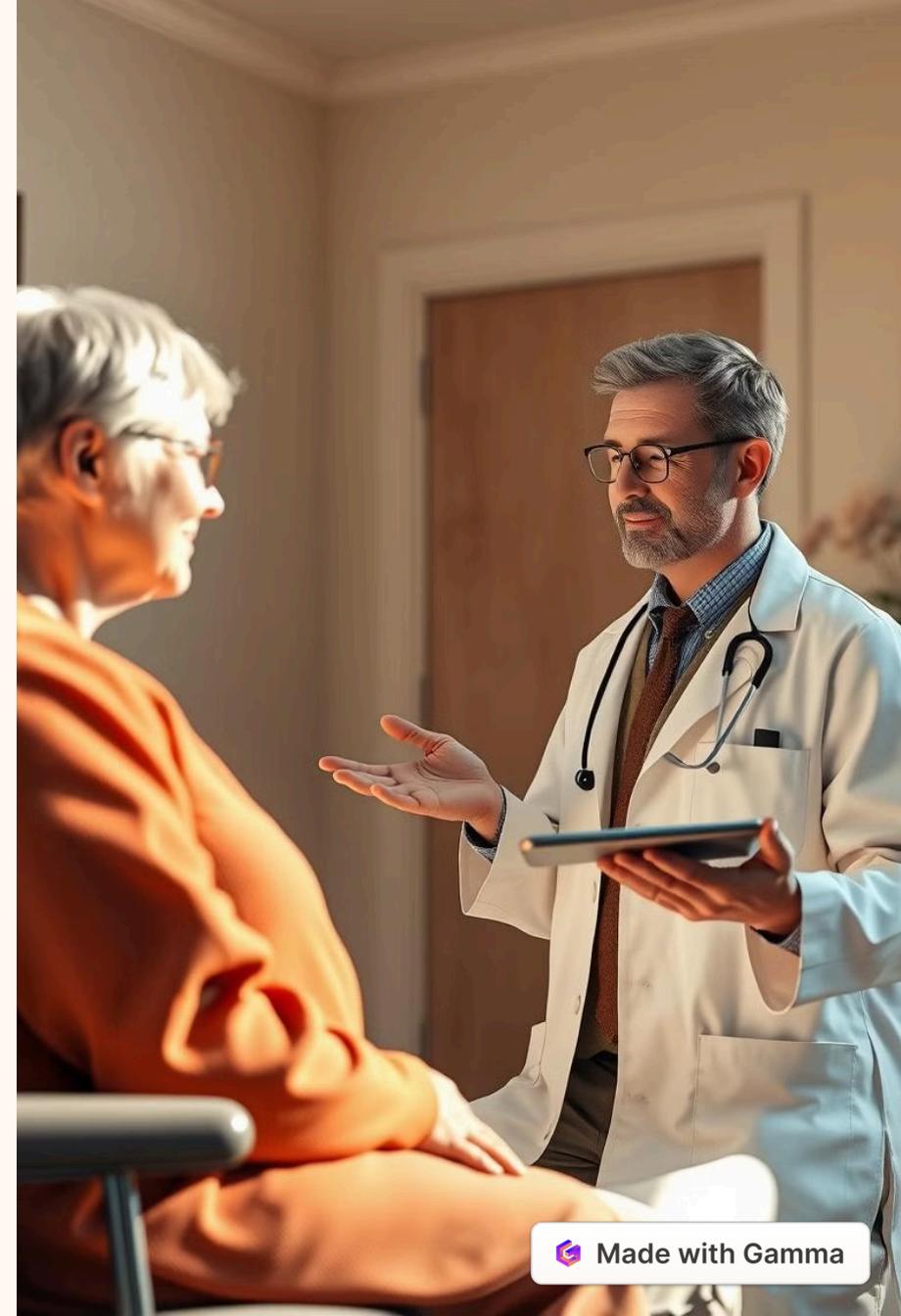
多面的な治療プログラムの評価
治療パッケージ全体の効果を評価します。

2

有効なコンポーネントの分析
パッケージが成功した場合、その後の研究で有効なコンポーネントを分析します。

3

解体戦略
治療パッケージのコンポーネントを体系的に排除し、関連するコンポーネントを分析します。



比較研究戦略

目的

ある治療技術が他の技術より優れているかどうかを決定します。

コントロールグループ

無治療コントロールグループと注意-プラセボコントロールグループがあります。

ランダム化比較試験 (RCT)

不安、気分、摂食障害の治療において、行動療法と薬物療法を比較します。

有効性研究と効果研究

有効性研究

効果研究

厳密に管理

あまりよく管理されていない

ランダムな割り当て

日常的な臨床診療条件

手技療法使用

正式な治療マニュアルなし



研究結果の評価方法



メタ分析

多数の治療結果研究を包括的かつ定量的に評価します。



NICE評価

英国の国立臨床優秀性研究所による厳格な評価です。



APA第12部基準

アメリカ心理学会が設定した「実証的に裏付けられた」治療法の基準です。





行動療法の研究結果

1 NICE評価

行動療法は多くの臨床障害に対してA評価（強力な経験的サポート）を受けています。

2 APA第12部評価

行動療法は「実証的に裏付けられた」治療法リストの大部分を占めています。

3 第3波療法

DBTは境界性人格障害に対して実証的な裏付けを得ており、ACTも有望な結果を示しています。

有効性研究と有効性研究の比較



有効性研究

厳密に管理された条件下で行われ、特定の治療法の効果を評価します。



有効性研究

日常的な臨床診療の条件下で行われ、治療法の実際の効果を評価します。



少数派グループに対する行動療法の効果

1

コミュニティベースの研究

不安障害やうつ病に対する認知療法や行動療法の効果が示されています。

2

エビデンスの蓄積

少数派グループのメンバーに対する行動療法の有効性が実証されつつあります。

3

今後の課題

少数派グループに対するエビデンスに基づく心理療法の関連性の実証が最優先事項です。